

山村暮鳥詩碑一覽

建立順 番号	詩	出典	所在地	建立年月	建立者	備考
⑪	「風景 純銀もざいく」	『聖三稜玻璃』 (せいさんりょうはり)	高崎市保渡田町・群馬県立土屋文明記念文学館前	2001(平成13)年 3月	群馬町	群馬町文化協議会の請願により、21世紀初頭の記念事業として群馬町が建立。5月10日除幕。参列者・暮鳥孫植崎久仁子氏。
⑧	「独唱」	『三人の処女』 SAGESSE I 創造の悲哀	高崎市棟高町・堤下公園内	1981(昭和56)年 10月	群馬=箕郷 ライオンズクラブ	1982(昭和57)年4月4日除幕。 大洗ライオンズクラブと姉妹提携記念に建立。公園は暮鳥生家近く。
⑬	「野良道」	『雲』	高崎市棟高町・志村氏邸庭(暮鳥生家跡)	2004(平成16)年 12月	志村邦雄氏ほか	黒御影石を使用。生誕120年・没後80年を記念して2004(平成16)年12月8日の命日に建立。2005(平成17)年4月3日に除幕。参列者・暮鳥孫植崎久仁子氏。
②	「月」	『月夜の牡丹』 月の匂ひ	高崎市足門町・ 高崎市市民活動センター(ソシアス) (元群馬町立中央中学校 校庭)	1958(昭和33)年 12月	群馬町	県内初の暮鳥詩碑。碑文は自筆原稿。12月7日除幕式。参列者・富士夫人、花岡謙二氏、暮鳥会(茨城県水戸市)、群馬関係者。群馬町立中央中学校南側の正門を入った左手にあり、正面が東に向いて立っていた。2012(平成24)年4月1日、中央中学校があった場所に高崎市市民活動センター(ソシアス)が開館したことに伴い、場所が敷地の北東部に移動し、現在では南に向いて立っている。
⑭	「父上のおん手の詩」	『風は草木にささやいた』	高崎市箕郷町生原・ 中隣(なかしま)氏私有地(暮鳥居住地)	2005(平成17)年 4月	中隣忠久氏	少年期(11歳から18歳ころ)父母と過ごしたゆかりの地。1895(明治28)年ころ、暮鳥親子は中隣家に間借りしていた。2005(平成17)年4月17日除幕。参列者・植崎久仁子氏(孫)。
④	「おなじく(梅)」	『雲』	高崎市山名町・観音山南丘陵 石碑の路	1975(昭和50)年 春	信沢克巳氏	碑文は暮鳥自筆原稿。碑の傍らには水戸市から運ばれた梅が植えられている。
⑤	「ふるさと」	『雲』	前橋市石倉町・利根川西河畔 中央大橋たもと	1975(昭和50)年 4月	前橋市観光協会	4月18日除幕。参列者・富士夫人、長女玲子氏。
⑥	「ゆふがた」	『雲』	前橋市西片貝町・前橋こども公園内 文学の小道	1975(昭和50)年 11月	前橋市	碑文は活字体。「文学の小道」には暮鳥のほか9人の文学碑が建てられている。
③	「ある時」 (また鯛の〜)	『雲』	茨城県伊香保町・水澤観世音(水澤寺) 仁王門前	1965(昭和40)年 8月	上野勇氏・ぜん氏	碑文は暮鳥のペン字を拡大。石は福島県産の黒御影石。8月8日除幕。参列者・富士夫人。水沢は暮鳥が随想のなかで、「鬱蒼たる老杉の森林。あたり一めん苔むした石畳。ひもじそうな雀等。自分は水沢がすきた。」と記している。
⑨	「山上にて」	『梢の巢にて』	吾妻郡東吾妻町・ 榛名湖畔 国民宿舎榛名吾妻荘 玄関前	1984(昭和59)年 1月	神保治八氏	揮毫・神保治八。生誕100年を記念して暮鳥の妹アサの息子(暮鳥の甥)である神保治八氏によって建立。詩は榛名湖のことを詠んだと思われる「山上」が選ばれた。5月20日除幕。直系のご遺族には特に連絡せず参列もなかった。
①	「ある時」 (雲もまた〜)	『雲』	茨城県大洗町磯浜・ 大洗ゴルフ倶楽部前 松林	1927(昭和2)年 4月	竹内勇之助氏 ほか有志	選詩・萩原朔太郎。揮毫・小川芋銭。1924(大正13)年12月8日の暮鳥没後、はじめて建てられた詩碑。1927(昭和2)年5月はじめに除幕。参列者・暮鳥養父土田三秀、富士夫人、長女玲子氏、次女千草氏、高村光太郎、前田夕暮。当初、磯浜子ノ日ヶ原に建てられたが、そこがゴルフ場になったため、1953(昭和28)年、茨城県立大洗公園に移された。
⑮	「老漁夫の詩」 (前半)	『風は草木にささやいた』 Ⅹ	茨城県東茨城郡大洗町磯浜神明町・ 鬼坊裏別荘跡地	2007(平成19)年 11月	暮鳥会 加藤宗一氏	暮鳥が1920(大正9)年1月から1924(大正13)年12月8日に永眠するまでの、およそ5年間を過ごした鬼坊裏別荘の跡地全体が擁壁で囲われ、2007(平成19)年11月17日、暮鳥会(茨城県水戸市)の加藤宗一氏によって、整備、建立された。 参考：高崎市文化協会群馬支部機関誌『遠望』第41号(2009年2月)
⑫	「おなじく(梅)」	『雲』	茨城県水戸市松本町・ 保和苑内	2003(平成15)年 11月	山村暮鳥詩碑建立 実行委員会	生誕120年を前に暮鳥の墓(江淋寺墓地—現在は祇園寺管理)に近い保和苑内に暮鳥会が中心となり建立された。11月23日除幕。参列者・長女玲子氏、次女千草氏。
⑦	「黒い土」 (抜粋)	『土の精神』	茨城県那珂郡東海村・ 村松山虚空蔵堂境内 三重之塔前	1976(昭和51)年 12月	東海村	揮毫・室生犀星。建立計画は1937(昭和12)年で、1939(昭和14)年に水戸に来ていた室生犀星に揮毫を依頼するも、戦争により実行できず、1972(昭和47)年犀星の書発見により計画が再燃し建立にいたる。1977(昭和52)年4月16日除幕。参列者・富士夫人、室生朝子、伊藤信吉。
⑩	「おなじく(雲)」	『雲』	福島県いわき市平・いわき市文化センター前	1984(昭和59)年 5月	山村暮鳥の詩碑を 建てる会	揮毫・土田玲子(暮鳥長女)。詩作に情熱を傾けた地。生誕100年を記念し建立。5月3日除幕式。参列者・長女玲子氏、次女千草氏。

その他の碑

墓碑	山村暮鳥墓碑	茨城県水戸市八幡町・祇園寺管理 (祇園寺から徒歩8分ほどの松本町・「江淋寺墓地」内)	不詳	不詳	1924(大正13)年12月8日肺結核の悪化と腸結核の悪化により永眠。9日に火葬、11日土田家(暮鳥の本名は土田八九十(はっくじゅう))の墓に入った。この時の墓は、江淋寺(江淋寺、光森寺とも)の廃寺により祇園寺が管理する墓地に1923(大正12)年に建立されたもの。現在の新しい墓碑がいつ建立されたかは不明。
書翰碑	山村暮鳥書翰碑	福島県・個人宅	不詳	不詳	1920(大正9)年2月9日付の猪狩鞆弥宛封書を石碑としたもの。当初、平町の菊苺山に近い小学校校庭に建立されたが、建立直後に移動を余儀なくされ、現在の場所に仮設置された。猪狩鞆弥は菊苺山を出るにあたり平駅まで暮鳥一家を送り届けた人物。